



校長室だより

校長 山崎 聡子

避難訓練

6月20日(火)に、給食室から火災が発生したことを想定し避難訓練を行いました。

子供たちは、クラスごとに校庭に避難しました。校庭に着くと、職員室にいた教職員が持ち出した児童名簿をもとに、担任がクラスの人数を確認し、学年主任に伝えます。学年主任は教頭へ、教頭が出席者数、欠席者数をまとめ、最後に校長へ報告し、全員の状況を確認していきます。子供たちは落ち着いて避難することができました。特に、高学年の方からは話し声はほとんど聞こえず、訓練ではあるけれども、しっかり考えて行動していることが伝わってきました。

私からは、次の4点を話しました。

- ① 校庭に避難する行き方はいろいろあるのに、なぜ今日はその避難経路を使ったのか。それは、出火場所から離れた経路を使うことで、安全に避難できるからであるということ。
- ② 口を手やハンカチで覆うのはなぜか。それは煙は有毒であり、その煙を吸わないようにするためであること。
- ③ 「お・か・し・も」おさない・かけない・しゃべらない・はしらない・もどらないという行動の大切さの確認。
- ④ 火事はいつ起こるかわからないが、火事が起こってしまったら、「自分の命は自分で守るんだ」と自分に話かけること。

そして、家に帰ったら今日の学習について話をしてほしいと伝えました。災害等、起きてほしくありませんが、地震、そして地震後

に起こる火災発生等、様々な場面を想定して事前に考え、訓練しておくことは、命を守る上で必要なことです。御家庭の中でも子供たちと話す機会をもっていただき、不測の事態に備えることができるようにしていただきますよう御協力お願いいたします。

意志の力

羽仁もと子さんの「自由」という言葉に、「あなたがたには、脱いだはき物を揃える自由があります」というものがあります。それは、「揃えない自由もある」ということで「愛と祈りで子どもは育つ：渡辺和子 著」

著書の中で、何かをしたい、したくないという気持ちは誰でも持っているものであり、人は、自分の判断や意志の力でより良い方を考えて選ぶことができること、そして、日々の生活の中での小さな自由の行使が大切なことであり、そのことが「自分らしさ」を作っていくことになるのだと書かれていました。

休み時間、委員会の子供たちが活動している場面に出あいます。例えば、階段を掃除したり、手洗い場の石鹸を補充したり、保健室に来室する子の話を聴いたり、配膳室の片付けをしたりと、学校のために力を発揮しています。先日は、図書委員が、本の貸し出しの手続きをする際、「その本は貸し出しをしていない本なんですよ。」と言葉遣いも丁寧に分りやすく説明している姿に感心しました。

時に、休み時間は遊びたいという思いもあると思いますが、自分の役割に責任をもって取り組もうとしたり、相手への伝え方を考えて行動したりしながら生活を送ろうとする子供たちの思いを支えていきたいと思っています。